第 14 回 2025 年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議

議事次第

日時：令和 8 年 1 月 23 日（金）11：00～
場所：東京都庁第一本庁舎 42 階
特別会議室 B

1　挨拶

2　DEAF SPORTS HOUSE の設置と実績について

3　日本手話言語による解説について

4　「ユニバーサルコミュニケーション技術の活用ガイド」（案）について

5　大会実績報告について

6　大会報告書について

7　大会収支の今後の対応について

8　意見交換

2　DEAF SPORTS HOUSEの設置と実績について

○ デフリンピックスクエア内に「DEAF SPORTS HOUSE（デフスポーツハウス）」を設置
○ 12日間で8,936名が来場
○ 来場者へ、東京2025デフリンピックパンフレットやデフスポーツ応援漫画シールを配布
○ DEAF SPORTS HOUSE内で競技のLIVE配信映像を投影し、交流しながら選手を応援できる場を提供

展示内容

デフスポーツ・デフリンピックの啓発　～認知度向上を図る～

・デフスポーツ応援漫画のパネル展示および動画再生
・全国キャラバン活動のパネル展示および動画再生
・デフリンピック100年の歴史パネルの展示
・今大会、2017サムスン大会、2009台北大会のメダルの展示
・来場者へ、デフリンピックパンフレットおよびデフスポーツ応援漫画シールを配布
・デフリンピックスクエア内に設置されたスタンプを探して集める「スタンプラリー」のスタンプ台設置

ろう者の文化体験　～ろう者の文化を伝える～

・ろう者２名の作品（計６点）を展示。ろう者の文化を鑑賞できる場を提供

交流機会の提供　～きこえないことや手話言語、共生社会について考える機会を創出～

・椅子や机等、来場者や各国の選手が交流できるスペースの設置
・競技のYouTube配信動画を投影し、交流しながら選手を応援
・応援メッセージホードの設置

3　日本手話言語による解説について

東京2025デフリンピックに向けて、日本手話言語による解説のための解説者（ろう者）及び日本手話言語通訳者の養成を進めてきた。大会では、音声解説に対する国際手話通訳および日本手話言語通訳の配置に加え、18競技の各決勝戦では日本手話言語による解説を実施することができた。

○ 手話言語アナウンサー・手話言語解説者・手話言語通訳者養成研修会(2024年度)

スポーツ放送分野へのきこえない当事者の参画による放送アクセシビリティ、バリアフリー仕組みを構築し、誰もがスポーツをより深く楽しめるよう、ろう者によるアナウンサー・日本手話言語解説や日本手話言語通訳者の養成と活躍の場を創出することを目的として実施。2024年5月～8月(対面研修、スタジオ実習) 、履修47時間、修了者49名。

○ 東京デフリンピックに向けた日本手話言語解説のための集中研修会(2025年度)

日本手話言語で解説する解説者(ろう者)と、日本語音声にする日本手話言語通訳者が大会本番で円滑に進められるよう、 2024年度養成研修会修了者及びデフ競技団体等の推薦者を対象に、解説のスキルの要点の再確認を目的として実施。

・2025年10月8日～11月14日、対面研修
・履修　　12時間(オンライン、オンデマンド、対面)
・修了者　解説者23名、日本手話言語通訳者40名

2025.10 集中研修会

東京2025デフリンピック バスケットボール競技の日本手話言語解説現場

18競技の決勝戦において日本手話言語による解説が実現

解説者（ろう者）22名、日本手話言語通訳者40名

延べ55日間、延べ167名が活躍

４　「ユニバーサルコミュニケーション技術の活用ガイド」（案）について

世界陸上及びデフリンピックにおけるユニバーサルコミュニケーション（UC）技術の活用・発信について、その知見を今後、様々な主体が各種イベントや街なかなどで活用できるよう、活用ガイドとして取りまとめる。

◆「ユニバーサルコミュニケーション技術の活用ガイド」（案）の構成

１　はじめに（p.１）

２　ユニバーサルコミュニケーション技術の促進目的や取組（p.２～３）

(1) 世界陸上・デフリンピックを契機とした取組の目的、概要　(2) 両大会に向けた取組

UC技術を両大会において活用・発信する目的や、大会の準備段階における取組等を説明

３　世界陸上・デフリンピックにおけるUC技術の活用（p.４～７）

(1) 全会場で活用したUC技術　(2) ビジョン等の活用　(3) 開閉会式や表彰式での対応
(4) 「音が見える、音を感じる」競技観戦　(5) みるTech

大会におけるUC技術活用・発信の具体的な内容について説明

４　両大会に向けた準備や大会本番で得た知見（p.８～１１）

(1) 課題と対応　(2) 利用者アンケート　(3) UC技術の活用に向けた留意点

大会でのUC技術活用にあたっての課題と対応、観客・スタッフへのアンケート結果など

５　活用ガイド（p.１２～２３）

○透明ディスプレイ　○タブレット　○会場アナウンスの文字化
○ミルオト　○Hapbeat　○スマートグラス　○SureTalk　○KIKI

活用の手がかりとなるよう、機器等の概要や活用にあたって工夫できる点などを紹介

5　大会実績報告について（2025年12月時点）

○ 大 会 名 称　：　第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025（正式名称）
　　東京2025デフリンピック（略称）

○ 開 催 期 間　：　2025年11月15日（土）から26日（水）まで12日間

○ 競技･種目数　：　21競技･209種目

○ 参加国･地域　：　79か国･地域等　※ICSD速報値

○ 参加選手数　：　約2,800名　※速報値

○ 競技会場数　：　21会場

※ 参加実績は精査中

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-日本人選手の活躍・大会の記録-

日本メダル獲得数（過去最高）	51個（金：16、銀：12、銅：23）
メダル獲得国･地域	54か国･地域
世界デフ新記録	39件
デフリンピック新記録	62件

※記録はICSD速報値

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-過去最多のメダルを獲得した日本選手団-

メダル獲得総数（日本選手団）：51個

各国選手団のメダル獲得総数（上位10ヵ国）

	国名	メダル獲得			
		総数	金	銀	銅
1	ウクライナ	100	32	39	29
2	日本	51	16	12	23
3	中華人民共和国	50	12	16	22
4	大韓民国	43	11	13	19
5	イラン	37	8	10	19
6	アメリカ	36	17	7	12
7	トルコ	26	2	8	16
8	カザフスタン	25	8	4	13
9	ドイツ	24	6	8	10
10	イタリア	21	8	8	5

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-多くの方が来場・観戦し、次の100年につながる大会に-

大勢の観客の前でアスリートが躍動

- 予想を大きく上回る約28万人もの観客が来場
- サインエールや競技の合間のイベントにより観客との一体感を醸成
- 多数のデフ世界新記録が誕生

コミュニケーションの壁を超え、交流の場を創出

- 年齢や国籍、きこえない・きこえにくいに関わらず、誰もがスポーツを楽しみ、応援し、交流することを実現
- 大会を通じて、共生社会を築き上げていくための大きな第一歩を踏むことができた

5　大会実績報告について（2025年12月時点）

-多くの方が来場・観戦-

競技会場	281,235人
デフリンピックスクエア	57,168人
子供観戦	約50,000人

※全来場者数の内数
※数値は延べ数

5　大会実績報告について（2025年12月時点）

-多くの観客が集まり、盛り上がりを見せた競技会場-

総来場者数：281,235人

競技別入場者数（上位10競技）

- 陸上　54,855人（９日間）
- バレーボール　42,900人（９日間）
- バスケットボール　29,181人（10日間）
- バドミントン　28,714人（９日間）
- 卓球　24,651人（６日間）
- 水泳　16,835人（６日間）
- ハンドボール　15,857人（６日間）
- サッカー　15,430人（12日間）
- テニス　12,029人（10日間）
- 柔道　5,982人　（3日間）

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-様々なプログラムを展開した、デフリンピックスクエア-

中央広場

- フォトスポット
- スタンプラリー
- 被災地PRブース
- 応援隊マスコットグリーティング
- キャラバンカー
- ヘブンアーティスト公演

桜花亭

- 茶道・着付け・生け花体験

カルチャー棟

- ホールコンテンツ（例：手話狂言、トークショー、パブリックビューイングなど）
- 提灯リコグニション
- カフェスペース（例：スターバックス【協賛】によるコーヒー提供（無料））
- みるTech
- 東京観光情報センター
- アニメ東京ステーション

国際交流棟

（選手・大会関係者向け）

- 選手交流ラウンジ（例：パブリックビューイング、伝統おもちゃ体験）
- おもてなしエリア（縁日）
- 東京観光ツアー
- 銭湯PR
- 折り紙体験
- 応援メッセージ

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-様々な方からの支え-

ボランティア	2,959人
サポートスタッフ（筑波技術大学・協賛者）	706人
手話言語通訳者	241人 （国際手話　100人、日本手話言語　141人）
協賛者	合計160者

国際手話通訳・日本手話言語通訳者の活躍

- 国際手話通訳者100人と日本手話言語通訳者141人が協働
- 競技会場、開閉会式、記者会見など多岐に渡る場面での通訳を実施

ボランティア

- 障害の有無や年齢、国籍などに関わらず、2,959人のボランティアが参加
- 各会場等での案内・誘導をはじめ、様々な場面で運営をサポート

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-多様なスタッフによる支援②-

国立大学法人筑波技術大学

- 筑波技術大学の学生98人が大会サポートスタッフとして参画
- きこえない当事者としての視点を生かし、きめ細やかな対応を実施

協賛者

- 協賛者の社員608人が大会サポートスタッフとして大会の運営に参画
- 各会場等での案内・誘導をはじめ、様々な場面で運営をサポート

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-協賛者による主な支援-

ユニフォーム（株式会社アシックス）

- 大会スタッフやボランティア等に対するスポーツウエア・ポーチの支給
- 手話表現の見やすさに配慮し、手話通訳者にはダークカラーのウェアを支給いただくなど、情報保障に対応したサポートを提供

車両（トヨタ自動車株式会社）

- 選手や関係者の輸送車両の提供等による大会運営支援

SIMカード等（ソフトバンク株式会社）

- 選手や関係者に対するスマートフォン・タブレット・SIMカードの無償提供
- 端末利用をサポートするヘルプデスクの設置

5　大会実績報告について（2025年12月時点）
-多くの人々・メディアが注目-

メディア取材数　**2,481媒体 3,976人**
（競技会場のみ・数値は延べ数）

競技動画再生数　**3,245,533回**
（11月27日15時時点）

SNS登録者数
（12月1日時点）

X：　5,350人
Instagram：25,285人
YouTube：36,800人

ユニバーサルコミュニケーション(UC)の促進

- 全競技会場において、透明ディスプレイ等を活用した多言語テキストによる案内、ビジョンやモニター上での場内アナウンスの多言語テキスト表示等を実施
- 一部の競技会場では、音が見える、音を感じる最新技術を活用し、新しい観戦体験の場を提供

サインエール

- 日本の手話言語をベースに複数の動きを組み合わせ視覚的な動きでデフアスリートに応援を伝える新しい応援スタイル
- 複数の競技会場に応援団を派遣し、きこえる人ときこえない人が一体となって応援することで、選手の活躍を後押し

6　大会報告書について

東京2025デフリンピックの大会報告書

- 大会運営の軌跡を記録し、大会関係者へ報告するとともに、大会を通じて得た経験等をレガシーとして後世に継承
- デフリンピック規約において作成が義務付けられており、国際ろう者スポーツ委員会（ICSD)に提出
- (一財)全日本ろうあ連盟、東京都、(公財)東京都スポーツ文化事業団の３者で発行

主な内容

■**第１章　大会概要** ＜大会ビジョン、大会がもたらしたもの、デフリンピックの説明、大会エンブレム、大会メインカラー、競技日程及び会場＞

■**第２章　大会前の取組** ＜大会の立候補から招致活動・経緯・決定、準備・運営体制、ガバナンスの確保、大会に向けた各競技の実地検証、開催に向けた気運醸成＞

■**第３章　大会運営** ＜運営主体の３者が一体となった大会運営、リエゾンの活用等選手団とのコミュニケーション、デフスポーツの特性等に配慮した競技・会場運営、デフリンピックスクエアでの様々な取組、誰しもが楽しむことができる式典、選手団に対する円滑な輸送サービス、選手団が競技に集中できる宿泊環境等様々なサービスの提供、怪我や救護に速やかに対処できる救護サービス＞

■**第４章　大会スタッフ及びボランティア** ＜大会運営を担うスタッフの確保、ボランティア・手話言語通訳・サポートスタッフ等が様々な場面で大会運営をサポート＞

■**第５章　財務** ＜協賛企業の支援、寄付・募金などを通しての大会への参画、「シンプルで心に残る大会」となる大会経費＞

■**第６章　大会に向けた共生社会実現に資する取組** ＜大会を契機としたユニバーサルコミュニケーションの促進、子供たちの競技観戦やデフスポーツの体験活動の実施及び大会への参画、きこえる人ときこえない人が一体となったサインエールでの応援＞

■**第７章　レガシー** ＜新たな技術と相互理解を通じて人々がつながる共生社会への歩みを加速、子どもたちが“スポーツの力”を実感、今後のスポーツ大会のモデル＞

今後のスケジュール（案）

■令和８年３月中旬　　完成版を報告
　　ICSDへ英語版（データ）を送付

■令和８年３月下旬　　公表、製本（日本語版）を配布

＜表紙＞

＜イメージ＞

7　大会収支の今後の対応について

大会収支の今後の対応について、現在の状況を報告

〇経緯

・令和５年12月に「東京2025デフリンピック大会規模（計画額）について」取りまとめ、公表

・大会開催を経て、現在、全日本ろうあ連盟、東京都、東京都スポーツ文化事業団の３者で大会収支の見通しを精査中

・以下について、今後公表予定

〇概要

・主な支出及び収入項目と金額の見通し